資 料 1

第 1 回協議会における主な意見（5 月 31 日開催）

【まちづくりについて】
○　大阪城の見え方、緑など幅広い視点での都市景観戦略がほしい。
○　地域の方々と対話しながら地元の声をまちづくりに反映できるようにしてほしい。
○　大手前の土地は切り売りするとまとまったまちづくりにならない。
○　府庁の機能が大手前に本当に必要なのか。本館、別館の土地を含めた全体での活用をオールタナティブで考えてもよいのではないか。
○　複合的で魅力的なまちづくりの絵を描くことに挑戦することが大切。
○　森之宮は求心力のある分野を真ん中に持ってこないと周辺開発のトリガーになりえない。
○　森之宮については、大阪市の資源循環型のエネルギー都市の取組みを踏まえ、近隣のＵＲや市公社の住宅を環境型に変えていくとか、地域医療との連携といった開発が考えられる。
○　ロングスパンの話（例：ＬＲＴ）とショートスパンの具体的な土地利用計画とは、きちんと分けた説明が必要。でないと民間事業者に誤った期待を与えるので要注意。
○　大阪城周辺の各拠点ごとに、高度医療と観光（メディカルツーリズム）、情報と観光、環境と観光などのテーマを持たせてはどうか。
○　大阪城を核に、周辺の水辺スポット、上町筋、本町通などとのつながりを軸にまちづくりを考えるべき。
○　連鎖型のまちづくりは戦略として大事な視点。
○　難波宮と大阪城を一体的に考えるのは重要。
○　難波宮にスポットを当て、難波宮の復元を進めるべき。
○　大阪城公園と難波宮は安っぽいテーマパークなどにせず、国家的な公園にすべき。
○　水都大阪というのだから、大川や寝屋川水系と関連した観光集客を考えてはどうか。
○　成人病Ｃは重粒子線治療を行うなどレベルアップすべき。
○　環状交通や交通特区など「移動のしやすさ」の視点を入れたまちづくりを考えてほしい。

【特区提案について】
○　特区は公有地だけでなく民有地にもメリットのあるものにすべき。
○　文化の香りの高い施設や集客施設や緑を活かした集客施設を考えるべき。
○　特区は方法論なので、その前に目標像をきちんと設定すべき。
○　130 万人の大阪城の観光客を 150 万人にするなど、政策目標をはっきり決めた上でのブランディング戦略を考えるべき。
○　特区は規制緩和するもの。新たな制度創設を提案するのであれば、特区とは別にきちんとした戦略を立てる必要がある。